

論 文 要 旨

学籍番号	81533466	氏 名	西山 紀明
論文題目： みかん耕作放棄地を有効利用するための転作の事例研究			
(内容の要旨) <p>都市近郊農家は都市の絶え間ない食料需要に今後も応え続けることが期待されるため農地を保全していく必要がある。しかし、都市近郊の耕作放棄地は全国的に年々拡大している。耕作放棄地は病害虫の発生や野生動物の棲み処形成を引き起こし、近隣の優良農地にまで悪影響を及ぼす。特に機械を導入することが難しい中山間農業地域では、平地農業地域に比べて耕作放棄されやすい傾向にある。そのため、中山間農業地域において耕作放棄地を有効利用する方法を追究することは非常に重要である。</p> <p>本研究では、事例研究として神奈川県小田原市のみかん耕作放棄地を対象とした。研究方法として、参与観察を用いて農家や小田原市役所農政課にご協力いただき現地調査並びにインタビューを行った。結果、以下のような条件を満たす農作物が見つかることが、小田原のみかん耕作放棄地の削減につながるのではないかという知見が得られた。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 体力的に毎日は働けない人や農業経験がない人でも担い手になることができる。2. 生産環境(傾斜や日射条件)が悪いみかん耕作放棄地でも栽培することができる。3. 鳥獣害が少なく、高い単価で売れて収益が上がる。 <p>小田原市の農家、小田原市役所農政課、農業技術センター足柄地区事務所普及指導課へのインタビューの結果、上記の条件を満たし小田原市のみかん耕作放棄地を削減する農作物としてレモンが有効な可能性があることを明らかにした。しかし、レモンの欠点としては柑橘の中でも風に弱い性質、枝に存在する棘が引き起こす生産性の低下を指摘された。</p> <p>最後にレモン栽培されている農地、北向き斜面、南向き斜面の風速をそれぞれ計測し、北向き斜面ではレモン栽培による有効利用の可能性あることを確認した。</p>			
キーワード (5語) 耕作放棄地、果樹、有効利用、新規就農、地域活性化			